

大学機関別認証評価

自己評価書

平成21年6月

大分大学

目 次

I	大学の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準 1 大学の目的	4
	基準 2 教育研究組織（実施体制）	1 5
	基準 3 教員及び教育支援者	2 9
	基準 4 学生の受入	4 5
	基準 5 教育内容及び方法	5 9
	基準 6 教育の成果	9 8
	基準 7 学生支援等	1 1 0
	基準 8 施設・設備	1 2 9
	基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	1 3 8
	基準 10 財務	1 4 8
	基準 11 管理運営	1 5 8

I 大学の現況及び特徴

1 現況

- (1) 大学名 国立大学法人大分大学
- (2) 所在地 大分県大分市（旦野原キャンパス）
大分県由布市（挾間キャンパス）
大分県大分市（王子キャンパス）
- (3) 学部等の構成
 - 学部 : 教育福祉科学部, 経済学部, 医学部, 工学部
 - 研究科 : 教育学研究科, 経済学研究科, 医学系研究科, 工学研究科, 福祉社会科学研究科
 - 関連施設 :
 - < 共同教育研究施設等 > 学術情報拠点, 地域共同研究センター, 総合科学研究支援センター, 国際教育研究センター, ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー, 福祉科学研究センター, 先端医工学研究センター, 高等教育開発センター, イノベーション機構, 保健管理センターセンター, 入学企画支援センター
 - < 教育福祉科学部附属 > 教育実践総合センター, 学校園（小学校, 中学校, 特別支援学校, 幼稚園）
 - < 医学部附属 > 病院, 医学教育センター
- (4) 学生数及び教員数（平成21年5月1日現在）
 - 学生数 : 学部5,063人, 大学院718人
 - 専任教員数 : 573人, 助手数 : 8人

2 特徴

本学は、下表のとおり、平成15年に旧大分大学と旧大分医科大学の統合によって発足し、教育福祉科学部、経済学部、医学部及び工学部の4学部と各学部を基礎とする4研究科並びに独立研究科である福祉社会科学研究科から構成されている。本学は、県内唯一の国立大学として、コンパクトさを活かした機動的な活動で、地域の知の拠点の役割を果たしている。

1. 学生の目線に立った教育システムの構築と学生支援の充実

教養教育カリキュラムの全面的な見直しを図り、「全学教育機構」を設置（平成20年）した。また、GPに採択された「国際・熱帯感染症実地教育プログラムの構築」（平成18年度）、「大分県における教育の情報化のための『情報教育イノベータ』育成プログラム」（平成19年度）など、特色ある教育への取組を推進している。さらに、ユビキタス社会への対応として「学術情報拠点」を設置し（平成20年）、学習環境の大幅改善、メディア教育体制の確立を図っている。

学生支援については、「大分大学活き²（いきいき）プロジェクト」（コンペ形式）を実施し、学生グループによる意欲的で独創的な企画を採用してきた。また、地元銀行と連携した「大分大学授業料奨学融資制度」によって経済的支援を強化している。さらに、キャリアカウンセラーやソーシャルワーカーによる「相談室」の開設や学生表彰制度の導入など多様な取組により学生支援を充実させている。

2. 統合のメリットを生かした研究推進と新たな創造

研究者間の連携の構築、学際的・総合的アプローチを図り、統合のメリットを生かした新たな研究創造に挑戦してきた。各学部・研究科の特性に応じた研究を推進するとともに、「先端医工学研究センター」の設置や「研究創造セミナー」の開催など、学部を超えた研究体制の構築に努めている。

3. 地域社会と連携した特色ある大学づくり

教育・研究・医療の成果を地域社会に還元し、地域社会との共生を図っている。特徴的な取組として、大分県及び県内自治体（18市町村）と包括協力協定を締結し、双方向的な共同研究等を推進している。また、国際的な連携、特にアジア諸国との特徴ある国際交流を推進している。

旧大分大学	旧大分医科大学
S24 大分師範学校, 大分青年師範学校, 大分経済専門学校より設置(経済学部, 学芸学部[→S41 教育学部→H11 教育福祉科学部]の2学部) その後, [S47]工学部, [S52]経済学研究科(修士), [S54]工学研究科(修士), [H4]教育学研究科(修士), [H7]工学研究科(博士後期), [H14]福祉社会科学研究科(修士)を設置	S51 国立大分医科大学設置 その後, [S56]附属病院, [S59]医学研究科(博士)[→H10 医学系研究科], [H10]看護学専攻(修士), [H15]医科学専攻(修士)を設置
旧大分大学と大分医科大学が統合して大分大学（旧大分医科大学は医学部）となる。	

II 目的

大分大学は、平成16年4月の法人化とともに「大分大学憲章」を制定し、基本理念として「人間と社会と自然に関する教育と研究を通じて、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成するとともに、地域の発展ひいては国際社会の平和と発展に貢献し、人類福祉の向上と文化の創造に寄与する」を規定している。これに基づき「教育の目標」を以下のように設定した。

1. 学生の立場にたった教育体制のもとで、広い視野と深い教養を備え、豊かな人間性と高い倫理観を有する人材を育成する。
2. ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識を修得し、創造性と応用力に富んだ人材を育成する。
3. 高い学習意欲を持ち、たゆまぬ探究心と総合的な判断力を身につけ、広く世界で活躍できる人材を育成する。

こうした目的・目標の下、「統合・法人化のメリットを生かし、地域社会と連携した特色ある大学作り」をモットーに、コンパクトさを生かした機動力に優れた大学を目指し、中期目標に、

- ① 学生の目線に立った教育システムの構築と学生支援の充実
- ② 統合のメリットを生かした研究推進と新たな創造
- ③ 地域社会と連携した特色ある大学作り

を掲げ、目的の具現化を推進してきた。

なお、「高い学習意欲」の醸成には、リードする教員資質の向上、教育内容・カリキュラムの充実、本学における学習環境の整備、個人の人権に配慮したコンサルティング等大学が有する機能を十分に活用できる制度を整える重要性を認識しており、学生とのコミュニケーションを図りながら整備している。また、本学が九州に位置することを考慮し、世界の中では特にアジア地域を重視した取組を展開している。

(学士課程、大学院課程毎の目的)

【学士課程】

<教養教育>

本学は、「今日の大学教育が抱える専門性と人間性の融和」という課題に対応するため、「広い視野と深い教養を」備える人材の育成に教養教育を重視している。教養教育は7分野（全学共通科目、導入教育科目、外国語科目、身体・スポーツ科学科目、基礎教育科目及び日本語・日本事情科目、短期留学プログラム科目）に区分されている。全学共通科目は、人文・社会・自然分野及び課題コア・情報処理・職業意識啓発・ゼミナール科目（外国語等）を包括し、全ての教員が関与している。全学共通科目の総開講数は175であり、広い視野を養う目的にかなっている。また、離れたキャンパス間の不都合さに対処するため、遠隔授業システムの導入やキャンパス間の連絡バスの運行を行っている。

<専門教育>

「ゆるぎない基礎学力と高度の専門知識」を目指して、各進路の特性に応じた専門教育を行う。各学部・研究科における目的の概略を以下に記す。

○教育福祉科学部

人間福祉の視点に立って、教育の現場で澁刺と活躍しうる資質の高い教員の養成や、使命感にあふれた福祉の分野に携わる人材の養成及び成熟した社会にあって専門的知識を創造的・総合的に活用できる人材の養成を行い、豊かな共生社会の実現に貢献することを目指す。

○経済学部

経済学、経営学を中心にしながら社会科学の諸分野について、基礎から応用・実践に至るまで幅広く学習することを通じて、経済社会の動向を的確に把握し、社会の中核を支える人材を養成することを目指す。特に、

今日の高度化・複雑化する社会に柔軟に対応しながら、各方面で真価を発揮するために不可欠な、学生の基礎的能力を高めることを教育目的としている。（経済学部アドミッション・ポリシー）

○医学部

医と看護に関する最新の学術を教育・研究し、高度の医学並びに看護学の知識と技術、そしてこれらを支える高い道徳観と豊かな教養を備えた医師あるいは看護師、さらには医学、看護学研究者を育成し、これらの学問の進歩、国民の健康増進、医療・保健を中心に地域や国際社会の福祉に貢献することを使命とする。

○工学部

世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、個性豊かで創造性あふれる人材を育成することを教育理念とし、自らの課題を探究する意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たす基礎、専門分野の学力に裏打ちされた、社会性並びに国際性豊かな人材を養成することを教育目的とする。

【大学院課程】

修士課程（博士前期課程）及び博士課程（博士後期課程）においては、共に高度な専門的知識・技術の修得を目指しているが、後者にあっては特に独立した研究者の育成に重点を置いている。下記の大学院課程の内、福祉社会学研究科は、国立大学の人文社会系として初めて福祉に焦点を当てた独立研究科として、平成 14 年に創設された。

○教育学研究科（修士課程）

学部教育の基本的知識並びに学校教育現場における教師としての経験や知見を土台に、さらに学校教育における教育の理論と実践に関する学術分野の総合的な研究・教育を行うことにより、高い研究能力と教育的指導力を備え、地域教育の発展に貢献できる実践力豊かな人材の養成を目指す。

○経済学研究科（博士前期課程、博士後期課程）

博士前期課程：旧来の枠にとらわれない高度な学際的・総合的なアプローチと実務に直結する政策的・応用的アプローチを通じて、現代経済社会の諸問題に対処しうる実践的な判断力と能動的な問題解決能力の涵養を図り、高度な専門職業人を中心として、21 世紀のリーダーとなるべき有為の人材を地域社会の各分野に供給することを目的とする。

博士後期課程：経済のグローバル化とともに地域の自立が求められる今日の社会において、地域経済の発展をめざし、地域づくりを担う、高度の専門性をもつ人材を養成することを目的とする。

○医学系研究科（修士課程、博士課程）

最新の学術を教授・研究し、高度の医学及び看護学の知識と技術並びにそれらの本義を見失わない道徳観と、それを支える豊かな教養を身につけた教育・研究者及び医療人を育成し、もって医学及び看護学の進歩、国民の健康の維持増進、更に医療・保健を中心に地域及び国際社会の福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。

○工学系研究科（博士前期課程、博士後期課程）

博士前期課程：自らの課題を探究する意欲と柔軟な思考力を有し、国際基準を満たす基礎・専門分野の学力に裏打ちされた、社会性並びに国際性豊かな世界に通用する人材を育成することを目的とする。

博士後期課程：質の高い特色ある教育と研究を通じて、世界に通用する科学技術を創造し、もって地域に貢献するとともに、豊かな創造性、社会性及び人間性を備えた人材を育成することを目的とする。

○福祉社会科学研究科（修士課程）

福祉を総合的・多角的に捉え、問題発見・解決のできる実践能力の涵養を図るため、社会福祉学・法学・社会学・経済学・経営学・教育学などの社会科学を駆使し、社会の様々な分野で活躍する高度職業人の養成を目指す。